

日本歯科医師会推薦委員の中医協における発言の検証 について(総会分)

日本歯科医師会推薦委員の発言の議事録(速記録)に基づく検証結果(総会分)

発言委員・番号	開催日	発言	発言内容
光安委員 [1]	11/06/18総会	会長、ありがとうございます。ただいま御紹介いただきました日本歯科医師会で専務をやっております光安でございます。岡委員と交代して参入いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。	
斎藤委員 [1]	11/11/26総会	<p>歯科につきましても、同様の趣旨で、診療報酬改定の要望をいたしたいと思います。先ほど医科の方から薬価差益をなくして「もの」と「技術」とを分離をしてという話がございました。しかし、歯科にとりましては、この薬価差益というものそのものがございませんし、これを技術料に振り分けてもらうということさえも今まで行われてこなかったという事例がございます。したがいまして、この際、「もの」と「技術」を分離してきちんとした評価にしてほしいと、こういうことは前々から申し上げているとおりでございますので、ぜひその辺を御考慮をいただきたいということでございます。まだ一つこの部分につきまして、こういうふうな蓄積が結局我々としてはいろいろな面で評価が長く技術料の方に振り向けられなかつたということに関して、象徴的に初診料、再診料の部分にそれが見られるということも、過去の意見陳述の中で申し上げさせていただいわけでございますが、この部分につきまして、たまたま自民党の医療制度改革の基本的な考え方にも取り上げていただいておりまして、歯科の初診料、再診料のあり方についての検討ということが取り上げられております。これを、例えばの話として、歯科の初・再診料だけを医科と同じにするといいますか、同等の評価にするというだけでも七・五%ぐらいの価格の引き上げが必要だというふうなことが一つございます。それから、物価・人件費の問題につきましては、これは先ほど医科の方から御説明ございましたようなことで、当然対応が必要だというふうに思いますが、特に歯科の場合は、この何年かの間にどんどんと収支差額が下がってはいるのですけれども、それを何とか少しでも食いとめようとしているのは、従業員を減らしてきている、リストラが大きなことになっているというところもございまして、現状のスタッフを確保するというだけでのひとつ評価もお願いをしなければならないだろうということでございます。それから、歯科医療の技術の進歩につきましては、同様の考え方で、これが約一%と三・九%というふうな形になろうかというふうに思っております。ぜひ歯科の診療報酬につきましては、総医療費に占める歯科医療費の割合も年々低下をしておりまして、非常に急速に全体の医療費としても下降線をたどっているということも御理解をいただきたいというふうに思っているわけでございます。改定項目等々につきましては、医科の方と一緒に出させていただいた要望事項の方に掲げてございますので、あわせて御検討いただきたいと思います。以上でございます。</p>	ものと技術の分離、初再診料、物価・人件費、歯科医療技術の評価
斎藤委員 [2]	11/12/01総会	<p>これは、この間、御説明のときにも申し上げましたように、結局、先ほど来いろいろ出ております薬価差というふうなものが歯科にはなかったわけです。したがって、そういう意味での補填をされるということがないという問題が一つあったわけです。同時に、それがさらに診療報酬改定のときにその差益がないという理由で技術料も補填をされなかつたということは、明らかに改定率の差を見ていただければわかるわけなんですが、そういうことのために、いろいろなところに格差ができるのですけれども、我々としては、歯科固有の技術の方にやはりある程度重点を置かざるを得なかつたということもありますけれども、財源が少ないために、医療の基本である一番最初の診察行為というところに手厚く配分ができなかつたのです。そのために、それが蓄積されて今こうなったということで、たまたま自民党の意見の中にも、初・再診料等のあり方にについて検討するという項目を入れていただいたけれども、例えばそこだけ直すにしてもそのぐらいかかりますよということを申し上げているわけでございます。したがって、医療ですので、我々歯科特有のものと医科特有のものとの比較はなかなかできないと思いますけれども、初診料とか再診料とか、いわゆる医療の基本である診察行為としてのところはある程度同等であってもいいのではないかというふうに思っているということでございます。それから、同じ病院の中で医科と歯科とある科があって、歯科だけが初診料が低いということは、一般的の患者さんから見ても、なかなか納得がいかない。何で歯科はそんなに低いのですかという話になる。これは一種の差別といいますか、患者さんの見る目にこういう差別も出てくるという可能性もありますので、ぜひその辺はそろえていただきたいと思いますけれども、一応自民党の取り上げられた意見の中で、それだけそろえても例えば七・五%ぐらいはもう目減りをしていますという話を申し上げているわけです。</p>	初再診料

発言委員・番号	開催日	発言	発言内容
斎藤委員〔3〕	11/12/15総会	非常に大きな制度改革あるいは財源の問題の中で、歯科については余り影響が少ないというふうな意味で、ほとんど無視されたような形で議論が進んでおりますし、細かい話ですからとも思うのですけれども、きょうのこの速報値の修正、補正にしましても、当日私は既に歯科についてはこういう休日の影響がかなり大きいということでマイナスになるはずだということを口頭で申し上げたわけですけれども、お目通しいただくように、どの方法をとってみても歯科はマイナスになっているのだということで、歯科は極めて苦しいのだということは御理解いただけるのではないかというふうに思っております。日医と同じような形でもし試算をすると、もっと大きなマイナスになってくるというふうなことになります。そういうことで、極めて難しいということでございます。それから、先ほど来出ております薬剤の一部負担金の波及効果云々についても、歯科はほとんど関係ございませんし、それをもとに四%伸びるではないかと言われても、大変我々としては困る部分で、一緒でなくせひお考えをいただきたいなど、こう思うところがあるわけでございますので、全体の中では細かいというふうな理解かもしれませんけれども、せひその辺は御考慮いただきたいと思っております。	医療経済実態調査
光安委員〔2〕	12/01/19総会	毎回この診療報酬の中でいろいろ問題が起こりまして、私どもの方にもやはり技工物を委託をする可能性がありますので、そういうところの評価はやはりしていく必要があるだろう、こういうふうに思っているものですから、その部分をここで対応していきたい、こういうふうに考えているところでございます。	歯冠修復・補綴物
斎藤委員〔4〕	12/01/19総会	そういう問題が起きないために、我々としても、そういうふうなところに関与する人のことも考えた配慮も必要であろうというふうに考えているわけでございますので、そういう問題がむしろ起こらないためにこの辺は十分に考える。十分と言えるほどのことはできないかもしませんが、ある程度のバランスはとっていきたいというふうに思っております。	歯冠修復・補綴物
斎藤委員〔5〕	12/01/19総会	これはかなり昔からといいますか、もう一番最初からこの問題だけがずっと尾を引いてきておりまして、いろいろ議論をしました中で、我々がいろいろコスト調査等々、技術料の評価等についての調査をやった分については、データ等については、それはやはり第三者で十分やるべきだと、こういうふうな御意見でございましたので、実際には具体的にまだまだ議論を詰めていかなければならないということで、引き続き検討するというふうな項目になっておりましたけれども、ずっと引き続いて今尾を引いてきている問題ですので、何らかの形で組みかえ等はやって合理化ができる分があれば、合理化に対応してみたいと、こう思っているわけでございます。	歯冠修復・補綴物
斎藤委員〔6〕	12/02/04総会	ごらんいただいても大体わかると思うのですけれども、医科の方でもかかりつけ医機能というふうな部分がかなり問題になっていることも承知はしているわけですけれども、歯科の場合、まず単科であるということありますし、それから自然治癒が全くない疾患を取り扱っているというところがかなり大きな特徴になっているわけでございまして、したがって、かかりつけ歯科医としてその患者の管理とかあるいは対応というふうなものがかなり重要な要素を占めてくるという意味で、かかりつけ医機能を特に評価をしたい、すべきであろうというふうに考えているわけでございますが、この中で、今回初診料だけというふうな感じがあるわけですけれども、実際には今のような観点からいくと、継続的ななすつとした管理というふうなものは歯科医療にはかなり大きなエートを占めるのですけれども、どうもそこまで検討が進まれないというのが今回の現状のような感じもしますので、将来的にはそこも視野に入れて評価をしていくべきではないかというふうに思っております。病院についても、もうこれもちょっと医科の病院とはかなり違った点があるわけですけれども、しかし、歯科の特徴としては、我々診療所では対応できないような高次の医療を特に取り扱って後方支援を担当してくれる病院の機能を幾らかでも評価ができればという観点でございます。そういうことで対応したいということでございます。	かかりつけ機能、病院歯科
斎藤委員〔7〕	12/02/04総会	どこが変わるものだということですが、先ほども申し上げましたように、歯科の場合は、患者さんが来たときに初診の段階で、ほかの疾患なんかと違って大体口の中にどういう病気が存在するというふうなことが初診の段階でわかるわけですので、それを計画的にどうやってどうするというふうなことの計画を立てて、そしてある先までの計画も立つわけですし、口腔としては一口腔を単位として処置をすることがありますので、そういうふうな計画というふうなものを、患者さんに病状とかあるいは計画とか、そういうものを十分に説明をして、そして計画の中でやるということを十分に情報提供をした上で、その提供した分については一つの初診料の中で算定をしていくこうと、こういう話があるわけとして、従来とどこが変わるものだということになりますと、今までですと、痛いところだけやって終わりと、こういうふうな形のものをひとつ継続的なきちっとした計画の中でやっていくようにしたいと、こういう話になるわけですので、ただ単に初診料を上げるテクニックではないかというふうな感覚ではない。同時に、ここにありますような、この「石膏模型」と書いて、なかなかどうも歯科のあれというのは一つずつおわかりいただけないのですけれども、これはスタディーモデルというふうに我々は呼んでいるわけですけれども、いろいろなかみ合わせだとあるいは病気の状況だとというものを、立体的に模型にして説明をするというふうなことで、かなりその辺は明確にわかる。あるいは口腔内の写真というふうなものを記録として残しておく。そういうようなものを使ってさらに説明をわかりやすく情報提供するということなんですが、この部分は初診料の中に包括をして考えていくことですので、決して引き上げというばかりの話ではないということございます。	かかりつけ機能